



佐賀大学



2022

佐賀大学

リージョナル・イノベーション センター
成果報告書





2022
佐賀大学
リージョナル・イノベーション センター
成果報告書

CONTENTS

01	センター長挨拶	02
02	センター概要	03
03	活動報告	05
04	研究・産学連携トピックス	09
05	佐賀大学共同開発商品の紹介	11
06	佐賀大学発ベンチャー紹介	13
07	佐賀大学内の連携企業紹介	13
08	地域と連携した取組の紹介	14
09	自治体等との連携協定	16
10	データでみる共同研究・受託研究等	17
11	産学官連携の制度	18



佐賀大学リージョナル・
イノベーションセンター
センター長 寺本 憲功

これまで長年、「産学・地域連携機構」が本学における産学連携事業および学術活動を牽引して参りましたが、平成29年（2017年）10月1日、新たに「リージョナル・イノベーションセンター」へと生まれ変わりました。本センターは、リサーチ・アドミニストレーター（URA）が中心となり、URAチームが産学地域連携部門および知財戦略・技術移転部門の2部門と協働し、本学が有する数多くの「強み」と「特色」を活かし、これまで以上に本学の学術研究振興および社会連携（地域連携）の機能強化を図って参ります。

今日の国立大学法人は、教育・研究・地域貢献に関しては地元・地域に根付いた機能強化が強く求められ、まさに時代の大きな転換期を迎え、本学は地域性、独自性、特色や強みの強化を図り、魅力ある大学を創造することに取り組んでおります。さらに、令和3年（2021年）9月、企業や市民との交流を一層、深め、地域に開かれた、本学の新たな「知」の拠点となる「産学交流プラザ」が開所され、「リージョナル・イノベーションセンター」は研究推進課、社会連携課、国際企画室および広報室と共に地域に関する「ワンストップサービス」を目指し、連携関係を強化することを目的に「産学交流プラザ」内へ移転しました。

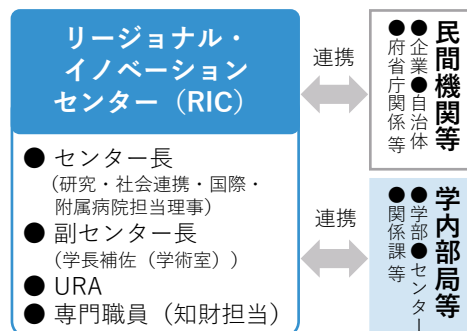
本学においては、研究者が生き活きと活動できる地域の「知」の拠点を形成するための研究環境の整備、重点研究領域を推進するための外部資金の獲得、新たな研究プロジェクトの探索、将来を担う若手研究者の育成を図るとともに、本学の特色を十分に活かした研究活動を通して、世界に情報発信できる研究成果を創出していく必要があるとして、研究マネジメント改革や研究力の強化を図るため、本学の研究戦略達成に向けて取り組んでおります。

～ 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター(SURIC) の歴史 ～

- 平成24年度 これまでの産学連携、知財、地域連携に関する産学官連携推進機構および地域貢献推進室を再編し「産学・地域連携機構」を設置。
- 平成28年度 本学初のURA（University Research Administrator）を採用。
- 平成29年度 URAを2名増員。就業規則等を定めてシニアURA、主任URA、URAの体制を整備。
- 平成29年10月 「産学・地域連携機構」を発展的に廃止し、新たに研究戦略推進機能を加えた「リージョナル・イノベーションセンター」を設置。これまで以上に、地域を志向した社会貢献・研究を推進し、地域活性化の中核的拠点となることを目的とした体制へと生まれ変わる。
- 令和2年度 URAを1名増員し、URA4名体制へ。
- 令和3年9月 「産学交流プラザ」へセンター機能を移転し、更に活動を強化。
- 令和4年度 URAを1名増員し、URA5名体制へ。

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターとは

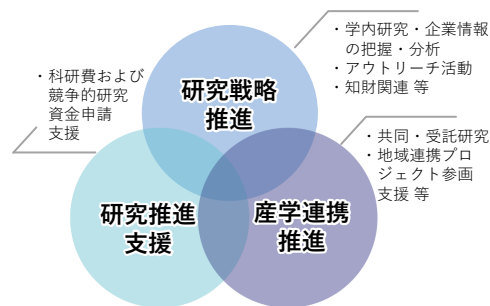
佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター（Saga University Regional Innovation Center：SURIC）は、本学の研究力の向上に向けた支援を行うとともに、佐賀県を中心とする産業界や地域機関との連携を支援します。佐賀大学の基本方針でもある、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学として、地域を志向した社会貢献・研究を推進し、地域活性化の中核的拠点となるよう大学のワンストップ窓口として活動します。



【図1】リージョナル・イノベーションセンターの概要

リサーチ・アドミニストレーターとは

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターには、URA（University Research Administrator）と呼ばれる5名のリサーチ・アドミニストレーターが在籍しています。URAは研究活動の企画・運営・成果の発信等、多様な業務に携わり、大学全体の最適化を担う新しい職種です。教員や事務職員とは異なる職種と定義され「第三の職」とも呼ばれます。



【図2】URAの業務・活動の概要

SURIC URA紹介

シニアURA 出田 光太郎

製薬企業研究所、電機メーカーでの研究および商品企画、大学発ベンチャーの創業、ビジネスインキュベーションにおける10年間のベンチャー支援、九大TLOでの技術移転業務等を経て平成29年4月より現職。

URA 大野 富生

九州大学大学院工学研究院後期博士課程エネルギー量子工学専攻単位取得退学 博士（工学）。専門は原子力工学。第2級知的財産管理技能士。国・私立大学の研究推進・支援および産学連携部署等を歴任し平成31年4月より現職。

URA 三島 舞

佐賀大学大学院農学研究科生物生産学専攻 修士（農学）。新聞社での情報誌編集者、環境系NPO、佐賀大学でのコーディネーターを経て、令和2年4月より現職。

URA 猿渡 映子

食品会社勤務を経て、九州大学に入職。約17年間にわたり産学連携コーディネータおよびURAとして研究支援や知財・産学連携支援業務に従事。令和4年8月より現職。

URA 平山 伸

筑波大学大学院環境科学研究科環境科学専攻 博士（農学）。専門は環境科学、応用藻類学。三菱重工（株）総合研究所を経て、平成29年6月より現職。

URAの業務・活動の概要

研究戦略推進業務

学内研究情報の把握・分析

- ・ 学内シーズの把握を図り研究戦略マップを作成します。

企業情報の把握・分析

- ・ 企業訪問や技術相談を通じて、主に佐賀地域企業のニーズ把握を図ります。

科学技術政策情報等の分析

- ・ 政府の科学技術政策について策定段階からインターネットによる情報収集や関係者からのヒアリングを通じて情報収集を実施。また、同様に民間公募等の情報も分析し適切な応募活動ができるよう共有化を図ります。

アウトリーチ活動

- ・ 研究室訪問記の掲載や学外へのPR活動を実施し、発信力・ブランド力の強化に務め積極的に広報をします。

イベント関連

- ・ 競争的資金獲得を目指した説明会の開催や技術シーズマッチングイベントへの参加を支援します。

知財関連

- ・ 教職員・学生への知財啓発・教育と、教員への知財相談、知財戦略支援を実施します。

ベンチャー創出支援

- ・ 大学発ベンチャー設立の機運を高めるため、関係情報の周知及び教員・学生とVC（ベンチャー・キャピタル）等との連携を図り、大学発ベンチャー創出を支援します。

情報収集活動・NW構築活動

- ・ URA業務遂行にあたり必要な情報の収集と人脈形成を実施します。

産学連携推進業務

共同研究・受託研究

- ・ 企業訪問やイベントと通じて研究者と企業のマッチングを実施し、共同研究・受託研究への締結を促します。

地域連携プロジェクト参画支援

- ・ 佐賀地域の自治体および企業が推進するプロジェクトに積極的に参画し有効な成果を達成できるよう、交渉・マネジメントを実施します。

研究プロジェクト企画立案

- ・ URA自らが企画する研究プロジェクトを立案し、研究チームの編成、参画交渉調整を実施し、競争的資金申請を支援します。

研究推進支援業務

科研費申請支援

研究者の申請についてブラッシュアップ支援を実施し申請および採択数の増加を図ります。

競争的研究資金申請支援

ブラッシュアップ支援を実施し競争的資金への申請および採択数の増加を図ります。

研究戦略推進の主な取り組み

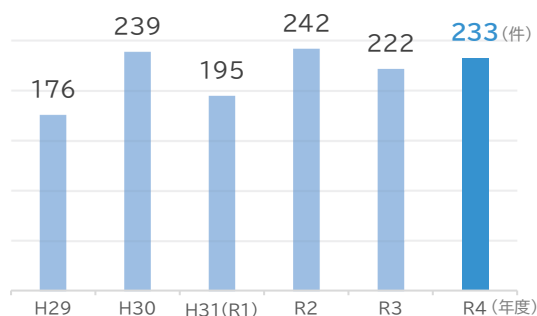
- ・ 学内研究情報の把握・分析
- ・ 企業情報の把握・分析
- ・ 科学技術政策情報等の分析
- ・ アウトリーチ活動
- ・ イベント関連
- ・ 知財関連
- ・ ベンチャー創出支援
- ・ 情報収集活動・NW構築活動

学内研究情報・ 企業情報の 把握・分析

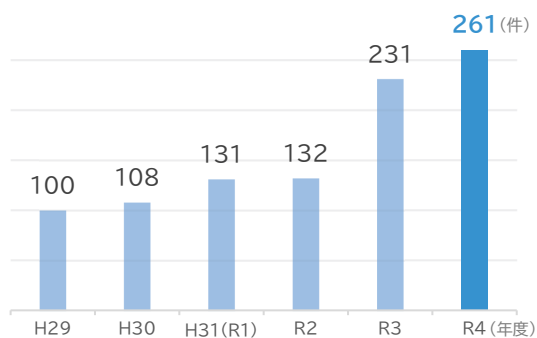
● URAによるシーズ・ニーズ把握

研究者から寄せられる各種相談対応及び学内研究情報（シーズ）および企業情報（ニーズ）の把握のため、令和4年度は「教員（研究室）訪問」を233件実施。また、「企業、地域および自治体等からの相談」を261件、「企業、地域および自治体等への訪問」を125件を実施しました。

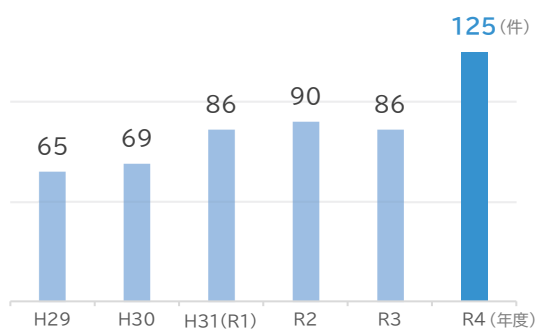
教員（研究室）訪問件数



企業、地域および自治体からの相談件数



企業、地域および自治体等への訪問



● 佐賀大学研究戦略マップの更新

国の戦略と地域のニーズを照らし合わせて策定した6つの研究戦略領域について、SDGsの概念も取り入れて研究戦略マップを更新しました。リージョナル・イノベーションセンターのホームページで公開しています。

研究戦略マップは ▶
こちら



アウトリーチ活動

● ホームページでの教員紹介

各学部でユニークな研究を行っている教員に独自インタビューし、学術的な研究者データベース等とは異なる切り口で研究の面白さ等をお伝えしています。令和4年度は4名の教員にインタビューし、ホームページには全29名のインタビュー記事を掲載しています。



芸術学系
藤井 康隆 准教授



農学系
松本 雄一 講師



教育学系
萱島 知子 准教授



医学系
村田 大紀 助教

ホームページのアクセス解析の結果でも毎月アクセス数上位に位置する人気コンテンツとなっており、今後も掲載を拡大していく予定です。

※下記の職名は教員インタビュー時のものです。

● 佐賀大学地域連携マップでの広報

令和4年度よりリージョナル・イノベーションセンターのホームページ内に「佐賀大学地域連携紹介マップ」を新設しました。地域と共に取り組むプロジェクト等について紹介しています。各取組は、学部名や地域名、キーワードで検索することができます。



「佐賀大学地域連携紹介マップ」トップページ

● 産学交流プラザでの研究成果展

産学交流プラザ1階「インフォメーションコーナー」において本学の研究成果を紹介する企画展を実施しています。

本コーナーには、本学の歴史や施設を紹介するパネル、学部・研究紹介の動画を放映しています。

SURICのHPは ▶
こちら



ベンチャー 創出支援

● 起業家育成FD講演会の開催

佐賀大学発ベンチャーの創出・育成・支援の取り組み強化と本学の研究活性化のため、教員・学生等を対象とした起業家育成FD講演会（全5回）を開催しました。

受講者アンケートから、講演内容の満足度は98%と高く、「起業に興味を持った」等の感想が多数ありました。

令和4年度開催スケジュール

第1回 (1/11)	「学生時代に起業するには」 櫻井蓮氏 FUTURENAUT(株) 代表取締役CEO
第2回 (1/18)	「プロジェクトをデザインする」 倉成英俊氏 (株)Creative Project Base代表取締役
第3回 (1/18)	「クラウドファンディングと資金調達」 板越ジョージ氏 クラファン総研(株)代表取締役社長
第4回 (2/1)	「会社の成長過程」 久米祐介氏 (株)KMTec 代表取締役
録画 配信	「佐賀大学発ベンチャーと知的財産」 平山伸氏 SURIC URA

● 佐賀大学発ベンチャーの育成・支援

令和元年6月に、研究成果を活用した新事業の支援等を目的に大学発ベンチャーに関する学内規程を整備しました。令和4年度に、佐賀大学発ベンチャーとして認定した受けた企業（認定ベンチャー）は2社あり、令和4年度末までに6社を認定しています。

また、起業家育成の機運醸成と学生による認定ベンチャーの増加等の推進のため、令和3年度から産学交流プラザ2階を「学生ベンチャースペース」として、認定ベンチャーには無償で貸し出しています。

※認定ベンチャーの一覧は13ページをご参照ください。

● コワーキングスペースを整備

全学生を対象にアントレプレナーシップ教育および起業に関するアンケートを実施したところ、回答者の約半数が起業に興味があり、起業に向けての相談窓口や、コワーキングスペースの設置を希望する声が多く聞かれました。そこで、起業に興味のある学生や、佐賀大学発ベンチャー関係者等が情報交換を行い、スキルアップのためのセミナーを開催する場として「コワーキングスペース」を産学交流プラザ2階に整備しました。今後は、起業家を招いた講演会や、課題解決のためのアイデアソン等利用者の要望に沿ったさまざまな

イベントの実施、起業準備及び起業後の困りごとを相談する窓口を開設予定です。起業家育成の場としての定着を目指します。



産学交流プラザ2階に設置したコワーキングスペース

産学連携推進の主な取り組み

- 共同研究・受託研究
- 地域連携プロジェクト企画立案
- 地域連携プロジェクト参画支援

共同研究・ 受託研究

● 地域の企業等との連携推進

第4期中期目標期間（令和4～9年度）においては、地域の企業等との共同研究等を推進することを計画に掲げています。共同研究等から生まれた新たな技術や知見を実装化することで、地域全体の発展を促進します。

※共同研究・受託研究数は17ページをご参照ください。

地域連携 プロジェクト 参画支援

● 地方自治体等との連携

地域の課題解決に向け、佐賀県をはじめとする地方自治体等との連携により、地域の特色を活かした取組を展開。大学独自の研究支援「地域みらい創生プロジェクト」では、将来的に研究成果が自治体の施策立案に還元される等、発展的な研究の実施を目指しています。

※地域連携の具体的な取り組みについては、14～15ページをご参照ください。

研究推進の主な取り組み

- 科研費申請支援
- 競争的研究資金申請支援

科研費 申請支援

● 科研費採択率向上に向けた取り組み

科研費獲得に向けた講演会（参加者:本庄88名、鍋島44名、令和4年6月23日開催）の開催や、科研費計画調書の作成支援「特進クラス」（11名）「ブラッシュアッププログラム」（12名）、個別支援（9件）、研究計画調書模範例の学内限定開示（令和4年6月開示開始）等を実施しました。

競争的研究資金 申請支援

● 競争的資金情報の発信と申請支援

国・省庁関連機関や民間財団・企業等の競争的資金の情報発信や応募支援を行いました。URA主導で競争的資金への応募に係る申請書の作成を含む支援を25件実施し、12件が採択されました。

注目の研究



ダイヤモンド半導体 関連研究

研究代表者
理工学系 嘉数 誠 教授

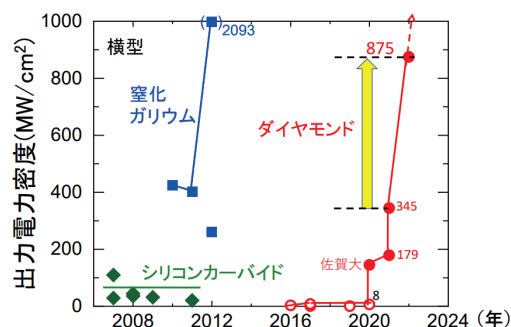
次世代の究極のパワー半導体であるダイヤモンド半導体デバイスを作製し、世界最高の出力電圧、電力の記録を更新。ダイヤモンド半導体は、従来のシリコン等と比べ、放熱性、耐放射線性等に優れ宇宙空間でも安定した動作が可能です。宇宙空間の人工衛星を基地局とした高速無線通信が現実味を帯びてくる中で、人工衛星で使われている真空管に代わる高出力、高周波数の半導体デバイスとして、実用化が急がれています。

● 令和4年4月19日プレスリリース

直径2インチ超高純度ダイヤモンドウェハの量産に成功

● 令和4年5月10日プレスリリース

ダイヤモンド半導体パワーデバイスの出力電力・電圧の世界最高値を更新



【図1】素材別出力電力密度の推移



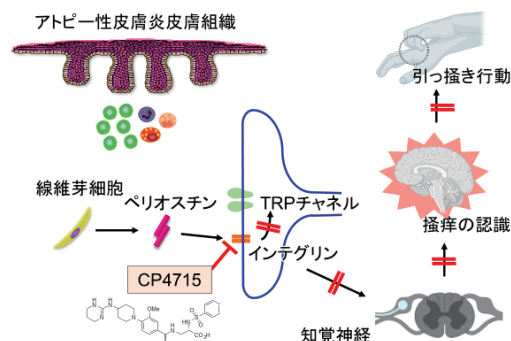
アトピー性皮膚炎 関連研究

研究代表者
医学系 出原 賢治 教授

出原教授ら研究グループは数年前に炎症や痒み症状を示すアトピー性皮膚炎モデルマウスを開発し、その痒みの原因の探究を可能としました。今回、アトピー性皮膚炎患者の皮膚組織で作られるペリオスチンが、知覚神経に作用して痒みを引き起こすとともに、その阻害剤が痒みや炎症を軽減することを発見。この発見により、アトピー性皮膚炎の治療薬の開発が大きく進むものと期待されます。

● 令和5年1月10日プレスリリース

アトピー性皮膚炎の痒みの原因を解明するとともに、その阻害剤を発見



【図2】研究概要



海洋エネルギー 関連研究

研究代表者
海洋エネルギー研究所
池上 康之 所長・教授

海洋エネルギー研究所が株式会社商船三井と株式会社ゼネシスと共同で取り組む海洋深層水を活用した海洋温度差発電（OTEC）の商用化に向けた実証事業が、環境省の令和4年度「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に採択されました。

● 令和5年3月24日プレスリリース

海洋エネルギー研究所 環境省「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に採択 沖縄県・久米島で実証研究

本事業でOTEC商用化に向け海水からの大規模熱回収技術の確立を目指します。

沖縄県久米島の
研究施設



令和4年度の研究関連プレスリリース

● 令和4年04月6日

クラウドファンディングプロジェクト「一人ひとりに合った最適な心房細動治療を目指して」

● 令和4年04月12日

佐賀学ブックレット⑨『小城藩主鍋島直能一文雅の交流ー』刊行のお知らせ

● 令和4年04月15日

生体の低酸素ストレス緩和にあらたな道筋をもたらす新奇化合物PyrzAの発見！

● 令和4年04月22日

オンライン型運動指導を対面型に続けて提供することで減量や体力をさらに高める可能性があることを発見

● 令和4年04月25日

佐賀大学×佐賀市 芸術地域デザイン学部学生がLGBTQ+（性的少数者）理解促進のための佐賀市オリジナルのロゴマークを作成

● 令和4年05月12日

成果展覧会『acupuncture to ARITAー有田内山地区での鍼治療ー』開催案内

● 令和4年05月18日

佐賀市・伊藤忠エネクス・不二製油グループ本社と共同し、CO2を活用した大豆育成研究プロジェクト開始のお知らせ

● 令和4年05月30日

心筋梗塞サイズを縮小し心不全を予防するワクチン開発に成功

● 令和4年06月23日

紙パンツの吸収体の厚さが歩行機能に及ぼす影響が明らかに～歩行安定性が向上、身体のだらつきが軽減～

● 令和4年06月23日

日本へのビワ伝来の謎を紐解く！ ～世界のビワのゲノム研究を実施～

● 令和4年07月25日

貼るだけ、皮膚からのアルコールを超高感度に検出

● 令和4年10月07日

Arita × Sogetsu いけばな展覧会の開催について

● 令和4年11月18日

「地域みらい創生プロジェクト」の研究発表が「Retocos 高島 Base」オープンイベント内で開催されます

● 令和4年11月24日

ほとんど焼成収縮しない磁器の開発と収縮抑制メカニズムの解明

● 令和4年12月05日

「九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（ギャップ資金）」に2件の研究が交付決定されました

● 令和4年12月08日

イソフロリドシドが海苔の“甘味成分”である事を発見

● 令和4年12月27日

令和4年度TSUNAGIプロジェクトの連携事業に取り組んでいます

● 令和5年01月17日

反応途中の酵素を観る新手法の開発 ～光をあてて温度を変えるだけ！～

● 令和5年01月17日

細胞老化と加齢による骨量減少の新しいメカニズムの解明

● 令和5年01月17日

ノリの色落ちを招く有明海珪藻赤潮の年間動態と赤潮原因種を特定

● 令和5年02月20日

環アジア国際セミナー in 肥前浜宿 【日澳蘭建築都市デザインワークショップ】

● 令和5年03月02日

産学官連携でDX!!

DXの取組が従業員と組織風土等に与える影響を実証研究しまとめました

05 佐賀大学共同開発商品の紹介

特集：今注目の共同開発商品

佐賀大学×森光商店 従来のダイズの4倍！高オレイン酸ダイズ 「佐大HO1号」を使った商品

農学部では高木胖名誉教授の頃（1980年代後半）から突然変異を利用してダイズを改良する研究に取り組んできました。そこから約40年、穴井豊昭教授（現九州大学）、渡邊啓史准教授らが、通常のダイズの約4倍のオレイン酸を含む新たなダイズ品種「佐大HO1号」を開発しました。（平成26年に特許取得）このダイズは遺伝子組み換えを行わずに開発された新品種です。現在、「佐大HO1号」は佐賀県武雄市や北米で栽培されており、本ダイズを使ったみそや豆腐、コーヒー、菓子等が市販されています。

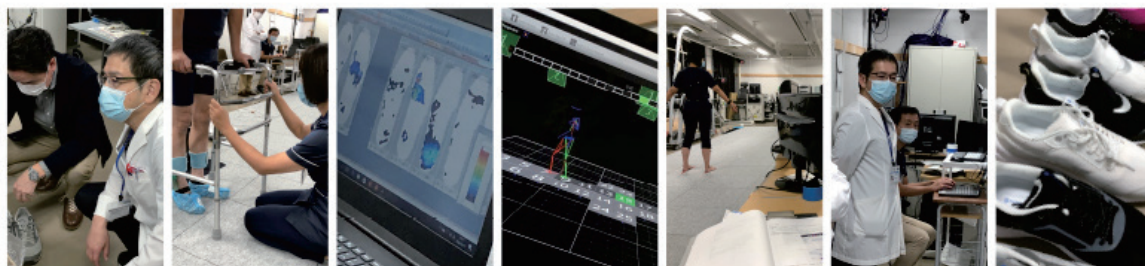


上／大豆ブレンドコーヒー
左下／なるせみそ「からだにうれしい米みそ」
右下／白大豆グラッセ

佐賀大学×アサヒシューズ “究極のコンフォートシューズ” 「アサヒフットケア」シューズ

医学部附属病院形成外科医の上村哲司准教授は、糖尿病足病変やそのケアに対する診療や研究等に取り組む中で、複数の診療科の医師らと糖尿病等を原因とする足病変に対し下肢救済カンファレンスを定期的を実施していました。平成23年11月、足の健康を守る靴の開発に注力する「アサヒシューズ株式会社」から声がかかり、上村准教授と同社でメディカル

シューズに関する共同研究を開始。
その約10年後となる令和3年9月に、本共同研究にて開発した「アサヒフットケア」シューズが発売となりました。令和4年度は、新たにキッズ用の靴の開発に向け、佐賀大学附属幼稚園・小学校での歩行解析等を行いました。



これまでの共同開発商品

● ラベル選べる冷用酒

さが県産品流通デザイン公社は、本学芸術地域デザイン学部の学生と窓乃梅酒造株式会社との産学官連携で日本酒ラベルのデザインを開発。「日本酒ラベル総選挙」にて人気の高かった3デザインの商品を、佐賀の県産品を厳選したセレクトショップ「SAGA MADO」にて販売。

● アクティブムーブチェア Weltz-self (ウェルツ-セルフ)

本学と株式会社オカムラを中心にした研究開発チームで開発した、座ったままでの安心・安全な移動を実現するユニバーサルデザインなオフィスチェア。

● 規格外のブドウを使ったドレッシング

本学と福岡県八女市ブドウ農家（ROC IA SAGA合同会社 代表 井手一郎）が共同開発した、規格外のブドウを使ったドレッシング。食べられるものが廃棄される「食品ロス」を減らす取り組みでもある。

● よ〜うかんがえる合格ようかん

九州経済産業局と本学URAの協力のもと、小城羊羹の製造・販売を行っている有限会社桜月堂と本学芸術地域デザイン学部の学生が商品化した小城羊羹。

● フワット 腰を浮かせる座圧軽減装具

本学教員が考案、佐賀大学発ベンチャーの株式会社山城機巧が商品化。腰痛に悩む方に、腰を浮かせて座圧を軽減する装置。

● J-Bridgeシステム

本学と河合塾で共同開発した、受験生が入力した活動記録や資格、各種大会の記録を選抜基準（ループリック）を用いてパソコン上で選抜の一部を実施できるシステム。

● 乳酸菌100億ライス

本学と有限会社マインドバンクが、日々のご飯で乳酸菌が摂れる！"お茶碗一杯100億個"特許に基づき製造した日本初の乳酸菌含有米。

● 理科実験用の補充部品 ループピアノ線

本学教員が考案し、株式会社ナリカが製品化したループピアノ線。

● CBT (Computer Based Testing)

本学と株式会社佐賀電算センターで共同研究開発。「思考力・判断力・表現力」等の能力領域について、デジタル技術を活用して評価を試みる。ペーパーの問題ではできない動画を用いた出題や、タブレット機能を活用したテスト。

● サンフラワーポテト (キクイモ)

本学で選抜・商標登録を行った機能性野菜キクイモの新系統。血糖値の上昇抑制や腸内環境の改善等の効果が見られる機能性成分「イヌリン」を従来のキクイモよりも豊富に含んでいる。

● 手首と肘への負担を軽減する授乳補助クッション

本学教員考案、株式会社赤ちゃんの城で製品化。授乳時の手首と肘への負担を軽減する授乳補助クッション。第10回「キッズデザイン賞」受賞。

● 乳幼児用おくるみ

本学教員考案、株式会社赤ちゃんの城で製品化。モロー反射を防ぐ等、新生児がよく眠るよう工夫されたおくるみ。

● 腱鞘炎サポーター

本学とイイダ靴下株式会社で共同開発した産後の女性に多く見られる腱鞘炎を予防するサポーター。

● さがんルビーを原料のスキンケア製品

本学で研究開発を行い、日本で初めて品種登録された国産の「グレープフルーツ」を原料としたスキンケア製品。

● フォークエア多機能いす

本学と有限会社ビューティフルライフで共同開発。理美容室のいすのような多機能性に加え長時間座れる構造も取り入れた利用者に優しい車いす。



Weltz-self
(ウェルツ セルフ)



よ〜うかんがえる
合格ようかん

06 佐賀大学発ベンチャー紹介

佐賀大学発ベンチャー（認定大学発ベンチャー）の紹介

※記載している学年は令和5年3月末時点のものです。

佐賀大学発ベンチャーは、株式会社ゼネシスや株式会社オプティム（東証プライム市場上場）等、15社です。また、令和元年度に制定した「佐賀大学発ベンチャーに係る称号授与及び支援に関する規定」により「佐賀大学発ベンチャー」の称号を受けた企業は以下の6社です。

代表取締役社長 山城 佑太
(大学院博士後期課程1年)

山城機巧

株式会社山城機巧は、腰の負担を軽減する用具「フワット」等を開発し販売。「福祉機器コンテスト」や「さがラボチャレンジカップ2019」で入賞し、令和2年には「キャンパスベンチャーグランプリ」の全国大会で最優秀賞を受賞。

代表取締役 浅川 泰輝
(大学院博士前期課程2年)

AS

学部4年次に株式会社AS（アズ）を起業。インターネットを使ったモバイルオーダーシステム「ASオーダー」を提供。本システムの活用によりイベント等での“どこでもフードコート”が可能。「さがラボチャレンジカップ2020」で最優秀賞を受賞。

代表取締役 梶原 薪
(大学院博士後期課程3年)

NEXS

学部4年次に地図に関する研究を行い、幼稚園や保育園のバスの位置情報を知らせるサービス提供で株式会社NEXS（ネクシス）を起業。研究室初の起業となった合同会社ロケモAIの創業時の代表社員でもある。「さがラボチャレンジカップ2021」最優秀賞を受賞。

代表取締役社長 森山 裕鷹
(大学院博士後期課程2年)

株式会社 **SA-GA**

学部4年次に株式会社SA-GA（エスエージーエー）を起業。ブロックチェーンを研究し、複数の特許を取得。特許の製品化をきっかけに起業し、現在は学校の先生たちの業務負担軽減のために、学校PAY@で校納金等のキャッシュレス化に取り組む。

取締役社長 濱田 悠菜
(農学部生物資源科学科4年)

テトラクリエイト株式会社

テトラクリエイト株式会社を令和2年9月に設立、令和4年8月佐賀大学発ベンチャー企業に認定。農学部での研究成果をもとに腎性貧血の治療薬での利用を目指した化合物PyrzAを開発し、研究用試薬として同化合物を富士フィルム和光株式会社から販売。現在、薬として市場に出すための研究開発に取り組む。

代表取締役 北原 誠大
(教育学部学校教育課程4年)

WIDE

株式会社WIDE（ワイド）は、部活動と外部指導者のマッチングサービス『SUKUSUPO』の運営、部活動の応援消費サイトの運営等、さまざまな角度から学生スポーツの環境向上に取り組む。すべての子どもたちが素晴らしい環境でスポーツに取り組める社会づくりに尽力する。

07 佐賀大学内の連携企業紹介

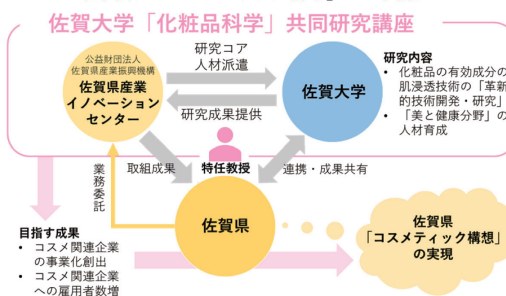
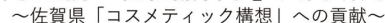
佐賀大学にオフィスのある企業9社

- 株式会社オプティム
- Citynow Asia株式会社
- 株式会社佐賀電算センター
- 九州北部税理士会佐賀県地区連絡協議会
- 株式会社中山鉄工所
- 株式会社メタルジャケット
- 福博印刷株式会社
- 株式会社サガテレビ
- 株式会社佐賀新聞社

08

佐賀大学×佐賀県
化粧品を科学的に学ぶ

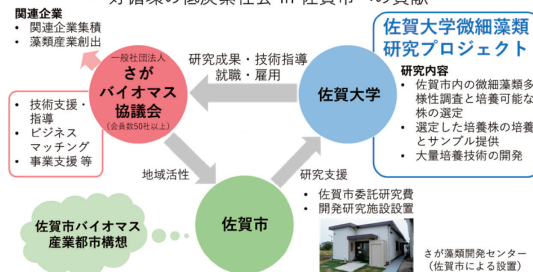
佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター化粧品科学共同研究講座は、公益財団法人佐賀県産業振興機構佐賀県産業イノベーションセンターと佐賀大学、佐賀県が共同で、佐賀県の「コスメティック構想」を実現するために活動しています。主なテーマは地産素材の化粧品への応用です。企業との研究等を通して研究者を育成することにより、コスメティック業界の未来を担う人材を佐賀から輩出します。



【図1】化粧品科学講座概要

佐賀大学×佐賀市

佐賀大学・筑波大学・佐賀市は「佐賀市における藻類バイオマスの活用に関する開発研究協定」を締結し、佐賀市内に生息する藻類の有効利用に関する研究を行っています。微細藻類の産業化プロセスに対応する6つの部会は、培養、抽出、機能性評価等をテーマに研究を進めています。また、さが藻類バイオマス協議会での企業との技術交流会（WG活動）を通じて開発技術やノウハウ等を民間企業等と共有し、藻類関連技術の育成を行っています。



【図2】微細藻類研究プロジェクト概要

佐賀県では、令和３年度から「TSUNAGIプロジェクト」と称し、主に県内の高等教育機関が持つ技術やノウハウなどの有効活用により、県の地域課題の解決や産業、学術の振興等を図り、共に佐賀の未来を創造していくことを目指しています。令和４年度は、本学から公募型の連携事業11件、県の課題解決型の連携事業6件、Society5.0時代に向けたチャレンジ研究2件が採択されています。

本プロジェクトのロゴマークは本学芸術地域デザイン学部の学生が提案。佐賀県と県内の高等教育機関が一對の染色体のように強く結びつくことで生まれる新たな価値観を表現し、佐賀の明るい未来と学生の力を表すイエロー、佐賀の「大空」と「海」をイメージしたブルーをキーカラーに構成しています。



自治体等との連携プロジェクト

学内の研究支援プロジェクト

地域みらい創生プロジェクト

地域みらい創生プロジェクトは本学の研究の質の向上を図り、地域との連携をさらに深めることを目的として、令和4年度から開始しました。同年度は佐賀県、唐津市、武雄市、鹿島市、神崎市、有田町を対象に、以下16件の研究課題に取り組みました。



● 令和4年度研究テーマ

「佐賀県」との取り組み

- ・ 「SNSからAIが推定した観光客の特性に合わせてオーダーメイド観光ツアーを提案する観光支援プロジェクト」／理工学系 中山功一准教授
- ・ 「窒素固定増強遺伝子SEN1を導入したダイズの生産性の評価」／農学系 鈴木章弘教授

「唐津市」との取り組み

- ・ 「玄海諸島7島における地域交流拠点整備のためのフィージビリティ・スタディに関する研究」／理工学系 平瀬有人准教授

「武雄市」との取り組み

- ・ 「武雄市における文化を起点とした地域創生マーケティングの可能性」／芸術学系 山口夕妃子教授

「鹿島市」との取り組み

- ・ 「カモ類の食性調査および行動解析による農水産物被害の実態解明」／農学系 徳田誠准教授
- ・ 「マッチングアルゴリズムを応用した鹿島市：肥前浜宿地区の民泊支援事業」／理工学系 上田俊准教授
- ・ 「Total small vessel disease scoreに対する遺伝子多型の影響:The Kashima Scan Study」／医学系 鈴山耕平助教
- ・ 「鹿島の魅力をインバウンドにつなぐ」／教育学系 石松弘幸准教授

- ・ 「肥前浜宿の歴史的町並みの保存活用に関わる建築設計とICT活用型まちづくり研究」／理工学系 三島伸雄教授
- ・ 「鹿島アートプロジェクト」／芸術学系 石井美恵准教授
- ・ 「口コミサイトとSNS の投稿を利用した観光分析」／経済学系 谷口みゆき准教授

「神崎市」との取り組み

- ・ 「桑菱茶の短期摂取による機能性ならびに安全性の検討」／医学系 原めぐみ准教授

「有田町」との取り組み

- ・ 「窯業（有田焼）と他分野（いけばな草月流）とのコラボレーションによる新規市場参入への取組みにおける協働プロセスの実践的研究」／芸術学系 本田智子准教授
- ・ 『新技術「自硬鋳込み成形技術」を用いたやきものに触れる情報アクセスツール町中オブジェ「陶磁器製立体 QRコード」作成と有田町内への設置』／芸術学系 三木悦子准教授
- ・ 「生活形態の復元的検証を踏まえた有田陶器市時の町並みデザインに関する研究と提案」／理工学系 宮原真美子准教授
- ・ 「天草磁器土を原料とする強化磁器の高性能化」／理工学系 三沢達也助教

09 自治体等との連携協定

協定先及び協定名一覧

● 佐賀県／平成17年5月

「アジアのハリウッド構想」に関する佐賀県と国立大学法人佐賀大学との相互協力協定

● 佐賀県小城市／平成17年12月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県小城市との相互協力協定

● 佐賀県鹿島市／平成18年7月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県鹿島市との相互協力協定

● 佐賀県唐津市／平成18年10月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県唐津市との相互協力協定

● 佐賀県佐賀市／平成19年11月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県佐賀市との相互協力協定

● 佐賀県、佐賀市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会／平成20年10月

佐賀県における産学官包括連携協定

● 佐賀県鳥栖市／平成23年11月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県鳥栖市との相互協力協定

● 株式会社サガン・ドリームス／平成23年12月

国立大学法人佐賀大学と株式会社サガン・ドリームスとのスポーツ文化を通じた地域づくりに関する連携協力協定

● 佐賀県農業協同組合中央会／平成26年3月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県農業協同組合中央会との連携に関する協定

● 佐賀県佐賀市、筑波大学／平成28年8月

佐賀市における藻類バイオマスの活用に関する開発研究協定

● 株式会社オプティム／平成29年5月

国立大学法人佐賀大学と株式会社オプティムとの間における包括的な連携推進に関する協定

● 佐賀県工業連合会／平成29年7月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県工業連合会との間における包括的な連携推進に関する協定

● 長崎大学、長崎国際大学、長崎純心大学、長崎外国語大学、長崎短期大学、長崎県立大学、長崎総合科学大学、活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎女子短期大学、西九州大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、九州龍谷短期大学、長崎県、佐世保市、長崎経済同友会、佐賀県、佐賀県商工会議所連合会、精華女子短期大学、香蘭女子短期大学／平成29年10月

九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォームに関する協定

● 株式会社佐賀銀行、株式会社佐銀キャピタル&コンサルティング／平成29年12月

産学金連携の協力推進にかかる協定

● 佐賀県有田町／平成30年12月※令和3年12月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県有田町との包括連携に関する協定

● Citynow Asia株式会社／平成31年3月

佐賀大学とCitynow Asia株式会社との人材育成及び共同研究事業に係る協定

● 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構／令和元年5月

国立大学法人佐賀大学と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構との連携・協力に関する協定

● 佐賀県／令和元年10月

佐賀県と国立大学法人佐賀大学との間における再生可能エネルギー等先進県実現に向けた連携協定

● 株式会社佐賀電算センター／令和2年3月

国立大学法人佐賀と株式会社佐賀電算センターの包括的な連携推進に係る協定

● 株式会社サガテレビ／令和4年3月

国立大学法人佐賀大学と株式会社サガテレビとの連携に関する協定

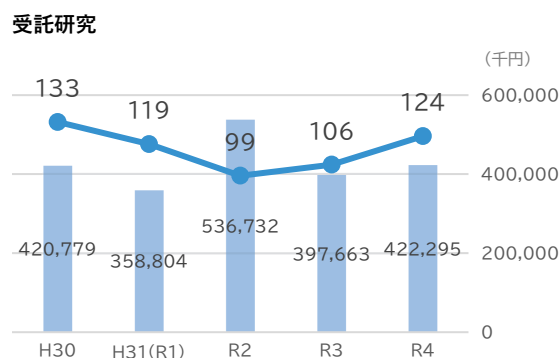
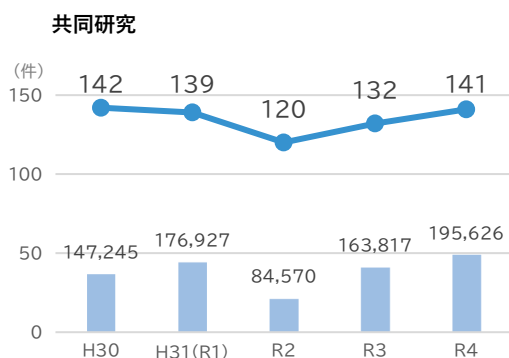
● 株式会社佐賀新聞社／令和4年3月

国立大学法人佐賀大学と株式会社佐賀新聞社との連携に関する協定

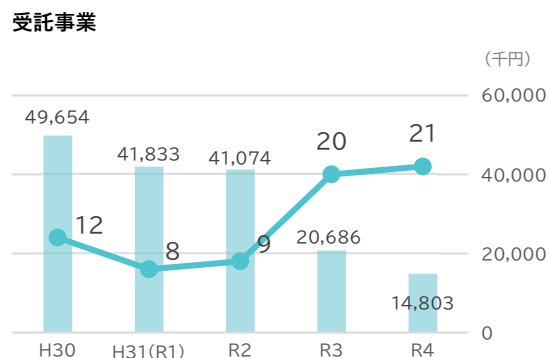
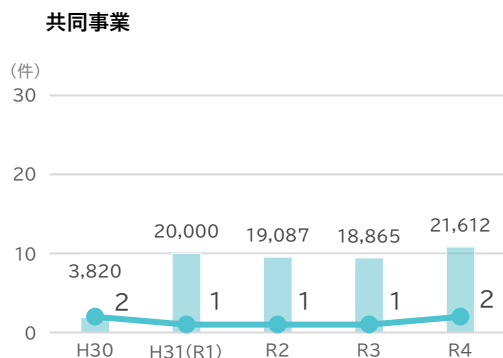
10 データでみる共同研究・受託研究等

共同・受託研究および共同・受託事業の推移

令和4年度の共同・受託研究は、令和3年度と比較して、共同研究数は9件、研究費は約3,200万円増加し、同様に、受託研究は18件、約2,500万円の増加となりました。



令和4年度の共同・受託事業は、令和3年度と比較して、共同事業数は1件、事業費は約270万円増加しました。同様に、受託事業は1件の増加となりましたが、事業費は約590万円の減少となりました。



公開特許情報

佐賀大学の特許情報は、下記サイトで検索できます。

● RICホームページ
「公開特許情報」

https://www.suric.saga-u.ac.jp/chizai_tech/patent.html



知的財産の実用化例

知財活用の実績は「05 佐賀大学共同開発商品の紹介」（11～12ページ）および下記サイトから確認できます。

● RICホームページ
「実用化事例」

https://www.suric.saga-u.ac.jp/chizai_tech/brand.html



11 産学官連携の制度

産学官連携のための制度の紹介

	学術 コンサルティング	共同研究	受託研究	共同研究 講座	寄附講座	寄附金
	教員が専門的 知識に基づき 指導・助言	教員と特定の 課題について 共同して行う 研究	委託を受けて 指定された課 題で行う研究	大学内に講座 を設置して共 同研究を実施	民間等からの 寄附での研究 教育の進展・ 充実を図る	研究教育の 奨励等に充て ることを目的 として受入
知的 財産権	— ^{※1}	共有可 ^{※2}	大学に 帰属	共有可 ^{※2}	大学に 帰属	大学に 帰属
経費	学術コン サルティ ング料	共同 研究費	受託 研究費	共同 研究費	寄附金	寄附金
講座の 設置	—	—	—	○	○	—
契約の 締結	— ^{※3}	○	○	○	—	—
研究 体制	教員個人 対企業等	教員個人 対企業等	教員個人 対企業等	大学対 企業等	—	—
間接 経費	^{※4} 10%	10%又は 20万円の いずれか 高い額	30%	30% (人件費 を除く)	0%	10%

※1 知的財産は発生しないことを前提とします。

※2 権利帰属・持ち分比率等については協議します。

※3 本学の約款に同意の上、申請書を提出いただきます。

※4 令和4年度は制度定着期間中のため徴収しておりません。

- 企業等が大学と共同研究を行う場合、企業等が支出した研究費の一定割合を、法人税（所得税）から控除することが可能です。
税制度に係る詳細は経済産業省ホームページ等でご確認ください。
- 上記の内容は変更することがございます。
最新の情報につきましては、リージョナル・イノベーションセンターまでお問い合わせください。

産学連携のための
諸制度の詳細は
こちら



令和4年度
佐賀大学
リージョナル・イノベーションセンター
成果報告書

発行日：令和5年7月1日
発 行：佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

※本報告書の組織名称や役職等は令和5年3月末時点のものです。

アクセス方法

● 交通案内

佐賀駅バスセンターからバスで約15分

佐賀駅からタクシーで約10分

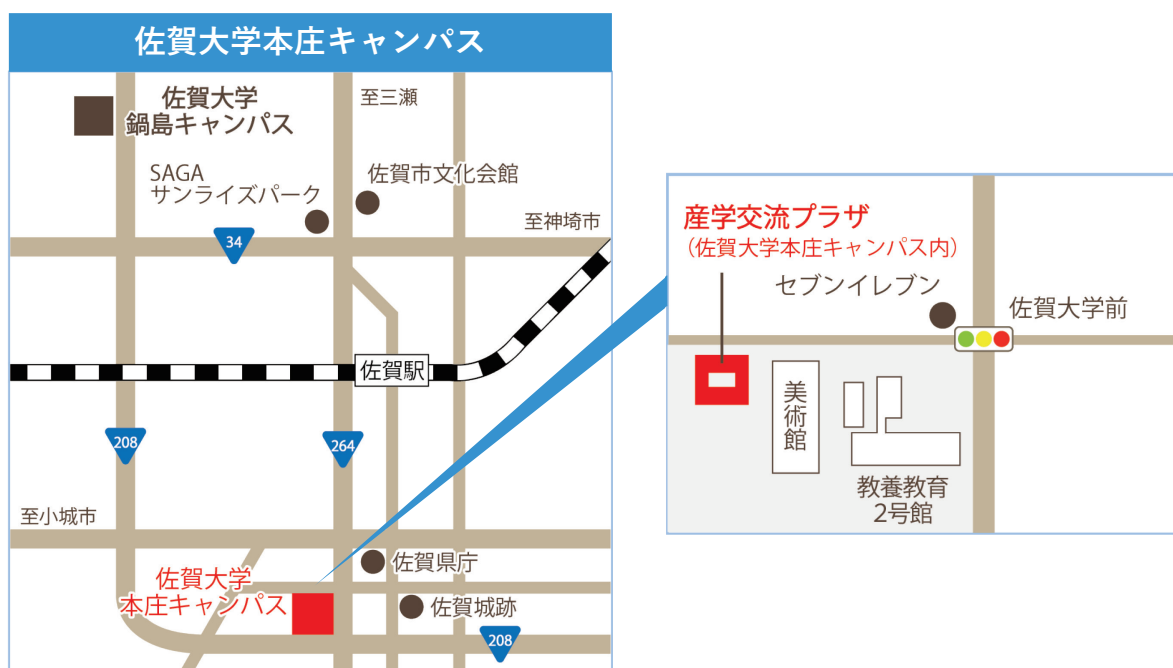
佐賀空港からタクシーで約20分

● 車両入構について

構内への入構は原則として入構料金が必要です。

※ 入構から24時間以内200円。以降24時間毎に200円加算。

※ 短時間利用（1時間以内）は無料。



佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター

佐賀県佐賀市本庄町 1

TEL : 0952-28-8151 / FAX : 0952-28-8186

(佐賀大学本庄キャンパス 産学交流プラザ内)

佐賀大学 RIC

(<https://www.suric.saga-u.ac.jp>)



発行日：2023年 7 月